

平成26年度病害虫発生予察特殊報第1号

平成26年7月24日
栃木県農業環境指導センター

トマト葉かび病レース2.9、4.9、2.5.9、4.5.9の 発生について

1 病害虫名：トマト葉かび病菌レース2.9、4.9、2.5.9および4.5.9
(病名 トマト葉かび病 *Passalora fulva* (Cooke))

2 作物名：トマト

3 発生経過

平成25年8月に県北部の雨よけトマトにおいて、葉かび病抵抗性品種「CF 桃太郎ヨーク」(抵抗性遺伝子 Cf-9)、平成25年12月に県中南部の施設トマトにおいて、葉かび病抵抗性品種「マイロック」、「麗容」(両品種とも抵抗性遺伝子非公開)に葉かび病の発生が確認された。発病株から分離された菌株を、独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構野菜茶業研究所にレースの検定を依頼したところ、本県では未確認のレースであることが確認された。

なお、抵抗性遺伝子 Cf-9 を持つ品種に発病するレースは、これまでに東北から九州にかけて13都県で確認されているが、レース2.5.9および4.5.9は国内で初確認である。

※レースの数字は、抵抗性遺伝子 Cf-2、Cf-4、Cf-5、Cf-9 を持つ品種に発病することを示す。

例：レース2.9は、Cf-2、Cf-9を持つ品種に、レース2.5.9はCf-2、Cf-5、Cf-9を持つ品種に発病する。

4 病徴

本病は主に葉に発生し、発病葉の表面は一部黄変し、裏面に灰黄色から緑褐色のビロード状のかびが密生する(図1、2)。病斑が進展すると、葉裏の菌叢は灰褐色から灰紫色に変化する。病斑は初め下位葉に現れ、しだいに上位葉にひろがる。病勢が激しい場合には葉が枯れ上がる。発病適温は20~25℃で、多湿条件下で発生しやすく、施設栽培で発生が多い。今回確認されたレースを含め国内で13種類が確認されているが、レースによる病徴に違いはない。

なお、本病の発生初期はすすかび病(図3、4)と酷似しており、肉眼での判別は困難で、顕微鏡による確認が必要である(図5)。県内では、同一ほ場内で両病害が混発した事例が確認されている。

5 防除対策

- (1) 県内で栽培されている抵抗性品種の多くは、今回確認された葉かび病のレースに罹病性であることから、抵抗性品種を栽培しているほ場でも、本病の発生に注意する。
- (2) 肥料切れや着果負担等により生育が衰えると発生しやすいので、肥培管理に注意する。
- (3) 多湿条件下で発生しやすいので、換気やかん水量等に注意する。
- (4) 発病葉は伝染源となるため、早めに取り除き、ほ場外へ持ち出し、適切に処分する。
- (5) 多発してからの防除は困難なので、初期防除に努め、薬剤散布は葉裏にも十分にかかるように丁寧に行う。なお、薬剤の感受性低下を防ぐため、同一系統薬剤の連用を避け、異なる系統の薬剤をローテーションで使用する。



図1 トマト葉かび病の病徴（葉表）



図2 トマト葉かび病の病徴（葉裏）



図3 トマトすすかび病の病徴（葉表）



図4 トマトすすかび病の病徴（葉裏）

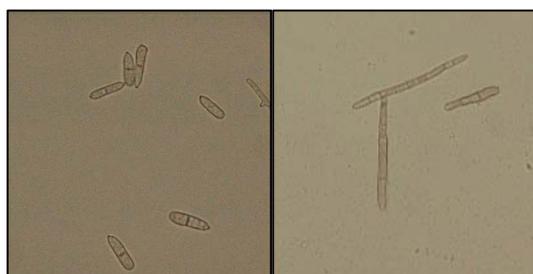


図5 葉かび病菌の分生子（左）
※右はすすかび病菌の分生子

詳しくは、農業環境指導センターまでお問合せください。

TEL 028-626-3086

<http://www.jpnp.ne.jp/tochigi/index.html>